

## いざという時のために

副校長 仲西 久美子

夏の暑さも少しずつ落ち着き、朝夕は秋の気配を感じるようになりました。学校では、2学期が始まり宿泊行事や進路行事など、安全に実施することができています。

さて、8月29日（木）に防災教育普及協会の宮崎賢哉氏を招聘し、防災教育講演会を開催しました。昨年の講演会では、避難所運営ゲーム（演習）を通して、福祉避難所にやってくる方々の対応方法を学びました。

今年は、「ある日の正午にマグニチュード6強の地震が発生し、市からの福祉避難所開設要請に基づき開設が決定した。」と仮定し、避難所運営マニュアルを活用したシミュレーション研修を行いました。教員は食料物資班や福祉避難班などの各運営班に分かれ、運営マニュアルを確認しながら役割分担して、発災から避難所運営準備を行いました。食料物資班は、備蓄倉庫から水や食料を体育館に運びました。福祉避難班は、体育館をどう区切るのかなど、話し合いながら避難所スペースを設置していきました。実際に物資を運んだり、環境を整えたりしていく中で、さらにこうしたら良いなど

課題が明確になり、活発な意見交換ができました。またPTA役員の方々には研修を見学して貴重な御意見をいただきました。災害はいつ起こるか分かりません。今回の研修で得た学びを学校全体で共有して、日頃の安全指導に生かすとともに、いざという時に教職員が一丸となって、組織的に対応できるよう、危機管理意識を高めてまいります。



避難所スペースの検討  
(福祉避難班)



マンホールトイレの設置  
(施設管理班)

## 中学部 作業学習について

中学部主任 松村美華

本校では昨年度より、中学部と高等部における「作業学習充実プロジェクト」を立ち上げ、外部専門員の助言を受けながら作業学習の授業改善に取り組んでいます。その中で、中学部で「働く態度」を育み、高等部で「働く力」をつけていくこと、作業学習を通じて達成感を持ち、誰かの役に立っている、貢献しているという自己有用感を得られるような指導を行うことを目指しています。

製品の品質や清掃の成果はもちろん生徒たちの満足感や意欲につながります。それに加え、作業に向かう態度や意欲、コミュニケーション力もしっかり評価するようにしています。例えば、清掃の手順を間違ってしまったことに気付いた生徒が「先生、間違えてしまいました。教えてください。」と教員に報告をしました。教員は「間違えをしっかりと報告できたことは良かったです」と評価した後、正しい手順を指導しています。

こうした取組を御家庭や寮と共有すべく、作業学習ファイルの持ち帰りをを行っています。その際、「何個作ったか」といった視点だけでなく「自分から挨拶ができたか」や「報告ができたか」といった面も一緒に振り返ってみてください。こうしたフィードバックの一つ一つが生徒の働く意欲の糧となります。

10月の授業参観は全学部の授業を見ていただくことができますので、小学部、高等部の保護者の皆様もぜひ様子を覗いてみてください。